

みうらトーク&トーク 平成 24 年度第 7 回

日 時 平成 25 年 2 月 13 日(水)

16 時 00 分～17 時 15 分

参加者

三浦市内小学校図書ボランティア有志

テーマ

学校での図書活動の推進について



<意見交換・概要>

市長 いま現在の小学校の図書室について簡単に担当課の職員から説明をお願いします。

職員 現在、市内の全ての小学校に図書室があります。図書室の主な用途は、授業での調べもの学習や読書活動、また、休み時間、放課後の図書貸出しに使っています。市内小学校 8 校のうち、7 校に図書ボランティアのみなさまに入っていていただいております。朝の読み聞かせ、授業のサポート、図書室の整備を行っていただいております。本来であれば、費用をかけて整備しなければならないところをボランティアの方のお力を貸していただいて、三浦市の学校図書活動の提供ができています。

市民 初声小学校の図書ボランティアは、PTAに限らず、卒業生の保護者の協力を得て活動しています。20 分休みの暗唱を聴く活動があり、新聞記事になったこともありまして、今後も持続していきたいというところです。

三浦市の全小学校の図書ボランティアの交流会があり、その中で、在学生の保護者のボランティアの方がなかなか入ってこないということで、新しいボランティアが気軽に入ってもらえるようにしたいという話がありました。また、ボランティアの中には、講習会に出席していただいた方もおり、読書活動を推

進したいという意見もあります。

図書ボランティアとして活動できることは、読み聞かせ、図書の整理までですが、図書ボランティアとは別に、専門的な知識・経験を持つ学校図書館の担当事務職員である学校司書が配置されていれば、子どもたちの授業のリンクした、より深い図書活動ができるようになるのではないかと思います。

市民 以前、児童に図書室は倉庫のようであったということを言われました。風が吹けば、砂埃が入ってきますし、雨が降れば雨水が入ってきます。図書に日光が当たってしまう状況で、背表紙が色あせ、タイトルが読めないくらいになっていました。

また、図書室に鍵がかかっているということがありました。以前、図書室が荒れたことがあったということで、鍵をかけたそうです。図書室の位置が奥まったところにあり、目が届きにくい位置にありました。図書ボランティア活動開始後は、ボランティア在室であれば、朝から夕方までは開け放つようにしました。しかし、子どもたちには「図書室は黙って入ると怒られる」という認識があるようにした。子どもたちにとって、入室するのに許可を得なければいけない図書室となっているようでは、かなり敷居が高いのではないかと思います。

また、ある方から本を寄付していただいたことがありました。その本はシリーズものであったところ、児童から、その続きが読みたいが三浦市は貧乏だから無理かということと言われ、小学生にも三浦市が貧乏であるという認識が浸透しているという状況がありました。

図書ボランティアの活動としていつもやっていることは、図書室の掃除、本をジャンル別に並び替えることです。本がジャンル別に並んでいないと、子どもたちが本を探せないのも、本には分類というものがあり、それに沿ってジャンル別に並び替えます。そうしますと、いろいろなことが見えてきます。ある分野の本が少ない、百科事典で全巻が揃っていない、子供向けの索引がついている百科事典ではなく大人向けの百科事典はあるが、20年前のものであることなどが分かってきます。この状態では子どもたちが調べものをするのは難しいのではないかと思います。図鑑は人気があり、何回も読まれていて、破れ

ていたり、ページが抜けていたりということもあります。地図も最新のものが無く、平成の大合併で全国の市町村が大きく変わりましたが、変わった後のものはありません。年鑑についても、例えば、都道府県別の生産物がどれくらいあるか、人口がどれくらいなのかなどを子どもたちが調べるときに必要ですが、ある年以降入ってこなくなり、調べることができない状況です。このように、本を分類別に並べてみて、子どもたちが本を探すことができるようになり、先生方も授業に必要な本の所在が分かるようになったりすることになるので、日常的に図書を整理する必要があると思います。

日常的に子どもたちが図書室を使えるようにするには、図書室を管理・運営する人がいなければいけません。先生方が忙しい中で、図書室のことも管理することが難しくなっているような気がします。子どもたちにとっては、小学校に入学して、自分の家で読んだ本以外の、おそらく知識の全分野の本が並んでいるところに入ることになりますが、目的の本が探せないようではいけないと思います。小学校卒業後、中学校、高校、大学、社会に出るようになると、自分が必要とする情報を見つける力、自分で本を探す力、選ぶ力が必要になりますが、それを最初に身に付けるのが小学校の図書室ではないかと思います。

図書室で子どもたちが三浦一族のことを調べていたときに、断片的に書いてある資料や、若干記述がある資料がありましたが、それだけでは全容はつかめないようなものでした。ところが市内の他の小学校が出した副読本の中によく書かれている部分があることを知っていたので、先生方をお願いして分けていただくことになりました。図書ボランティアが見て、調べものに使えるだろうと判断しお願いしたもので、その授業を受け持った先生の思いは別にあったのかもしれないとも思いましたが、たまたま三浦一族について書いてあるものを図書ボランティアが知っていたので、そのようにしました。授業に本当に役立ったかどうか、図書ボランティアに対して先生方が遠慮がちであるので、頼まれることもめったにありません。子どもたちの会話、何を探しているのか聞いてみて、もしかしたら、自分が勝手なことをやっているのかもしれない、先生方に見れば、図書ボランティアに対しては頼みにくいことがあるのかもしれない

れないのです。

市民 図書ボランティアの活動の限界ということだと、先生方が遠慮がちでボランティアの存在が授業に役立てられていないのではないかと思います。図書ボランティアとして子どもたちにどのくらい踏み込んで行って良いのかというところがあります。学校図書館の専門スタッフと図書ボランティアの役割分担ということで、司書教諭、学校司書、図書ボランティアという約割がそれぞれあるわけですが、図書ボランティアは読み聞かせやちょっとしたお手伝い程度のことはできます。いま、学校の中に司書教諭の方が何人か配置されていると思います。資格を持った先生がこれに当たっていますが、通常のクラス担任も持たれているので、図書室だけに専念することはできないと思います。そこで、専門職である学校司書を全校に配置をしていただきたいということがあります。これが配置されれば、学校の図書室がとても活性化されてくるのではないかと思います。三浦市の厳しい財政を考えますと、単に本を増やすことはやはり厳しいかと思いますが、市全体の冊数を増やすのではなく、学校相互間で本の貸し借りができるようにするなど、本のスペシャリストが本の配置、授業との関連性を把握し、各校の学校司書が連携していけばよい循環が生まれるのではないかと思います。学校司書を配置することについては検討していくのかをいうことをお聞きしたいと思います。

市長 三浦市は財政的に厳しい面があり、できないことが多いと思われていますが、必要なものに関しては財源を使っていきます。使い道が決まってしまうものもありますが、お金がないから何もしないということではありません。

現在は、学校に学校司書を配置するということまではできていません。学校の教職員も忙しいということだけで図書室を管理しなくてもよいということにはなりませんし、自分たちの学校ですし、自分たちが責任を持って子どもたちを育てることが仕事であると思います。学校図書が不足しているということについては、図書を徐々に増やしてはいますが、なかなか追いついていないというのが現実です。学校司書が必要ということになったとしても、一度に全

校に配置というのも難しいと思いますので、学校教育を遂行していく上で、どのように必要かという検討はする必要があると思います。

市民 最初に学校の図書室に入ったときの印象は、ここが本当に図書室なのかと思いました。学校の資料が積み上げられていたり、本来であれば分類されているべき本が分類されておらず、それらを管理する人がいなかったり、やはり、倉庫という印象でした。調べものをするにも目的の本を探せるような状況ではありませんでした。大人でも探せない状況でしたので、子どもにとってはより探せない状況であったと思います。活動の中で、最初は家庭の整理整頓のような感じでやっていましたが、専門的な知識がないので、本をどのように並べたらよいのか、分類をどのようにするのか、勉強しないとわからない部分がたくさんありました。他市の研修に参加し勉強する機会をいただき、いろいろな工夫をしていることを学ぶことができ、そこから、図書室を使いやすいように、子どもたちが入りやすいように、変えることができてきたと思います。しかし、子どもたちにとって、授業とリンクした図書室の活用まではできていない状況です。図書ボランティアではできないようなことが必要とされることもあり、学校司書が必要であると思っています。また、ボランティア活動をするにあたってもっと勉強できるような図書ボランティア養成講座や、ボランティア同士で意見交換する場があれば、ボランティアの力をもっと活用できると思います。

市民 他市の小学校から転校してきた子どもの視点から見て、三浦市の小学校の図書室は図書室とは思えない、本が少なく、暗く、本が雑に置かれている状態で読む気がしないという話でした。転校前の小学校の図書室には司書が配置されいつでも本を借りられる体制でしたが、今はそれができません。三浦市は環境の良さ、都心からの近さもあり、ここなら子育てができると思いましたが、教育面では格差があるように感じます。教育は平等であるべきだという思いが親としてありますので、同じ県内の他市と格差があるのは好ましくないと思います。読む力や、聴く力を育てるために、読書活動は推進していかなければならないものです。生涯学習課担当の読書推進活動について、図書ボランティアで

担当課と協力してお手伝いをしていきたいと思います。三浦市全体の読書力を底上げしていきたいと思い、市民の意識が図書室に向かうようにしていきたいと感じます。

市民 三浦の図書室にないものを横須賀の図書館に探しに行くということは、昔から変わっていないです。三浦で子育てをしたいと思わせるのであれば、図書のことも大事ではないかと思います。

市民 三浦市は京急沿線の中でも環境が良く、三崎口駅からの都心方面への通勤もできるので、教育が充実していればもっと良いなと思いますし、これから子どもたちのためにも考えなければと思います。

市長 学校図書については、子どもの視点から見ても図書室とはいえないような状態ということで、問題意識を持っていかなければいけないと思います。

市民 これまでの、ボランティアの交流会ですが、市内の図書ボランティアが可能な限り集まって意見交換をしました。また、横須賀市のボランティア養成講座に少し参加させていただくこともできました。

市長 教育環境は平等であるべきなので、その格差は問題であるから真剣に取り組まないといけないものです。現場のご意見をお聞かせいただくような場を作ります。

市民 子育てのしやすさは、若い世代が集まる要素であります。学校の図書室だけが充実しているだけではなく、学校の全体の教育が充実させることを視野に入れとほしいと思います。

※ 公表については了承を得ております。